

---

ポスター発表**[PG01] ポスター発表（一般 A：コアタイム1）**2024年3月29日(金) 11:30 ~ 12:30 桜（一般）（桜）

---

**[PG01-13] 奈良県に侵入したアルゼンチンアリの個体群タイプと分布・分散パターン**○早坂 大亮<sup>1</sup>、加藤 顕進<sup>1,2</sup>、平岩 将良<sup>1</sup>、澤畠 拓夫<sup>1</sup> (1. 近畿大学・農学部、2. 国交省・近畿地整)

侵略的な外来アリ類は、人間の幸福や経済・社会、また生態系の安定性を脅かす。なかでもアルゼンチンアリは、世界で最も影響力のある非意図的外来アリとして悪名高い。外来アリの分布の中心は、輸送拠点となる港湾地帯である。港湾地帯は周囲の景観から隔離されているため、管理方針も比較的立てやすい。しかし、一部のコロニーは輸送トラック等に付随して、内陸都市部などに二次的に移動する。2021年、奈良県で本種が初確認された。内陸都市部へのアルゼンチンアリの侵入にかかる知見は、国内外を問わず限られている。そこで本研究では、奈良市に侵入したアルゼンチンアリ個体群を対象に、（1）分布の現状把握ならびに侵入後における分散過程の予測と、（2）敵対性試験にもとづく本個体群のタイプの推定を行った。分散過程の予測には、セルオートマトンモデルを用いてシミュレーションした。奈良個体群のタイプを明らかにすべく、調査地全域の複数地点から本種の個体を採集し、同一地域集団内で敵対性試験（five on five test）を実施した。その後、異なる遺伝集団（ハプロタイプ：LH1-LH4）間で同様の試験を行い、敵対性にもとづくアルゼンチンアリ奈良個体群を特徴づけた。本発表では、これらの結果について報告する。